

平成19年度第1回公立大学法人秋田県立大学経営協議会
議事要旨

- 1 日時：平成19年6月18日(月)15:00~17:00
- 2 会場：ルポールみずほ 2階「ふじの間」

3 出席者

(委員)

種市委員、三浦委員、渡邊委員

小林理事長、柚原副理事長、新岡理事、森理事、駒野理事、竹村理事

(監事)

倉田監事

(事務局)

伊藤次長、佐藤統括リーダー、渡辺チームリーダー、加藤チームリーダー、佐藤チームリーダー、小野チームリーダー、能美チームリーダー、阿部チームリーダー、智田チームリーダー、鈴木シニアスタッフ、畠山職員

4 議事

定款の定めにより理事長を議長として会議が開催された。

(1) 定款に基づき経営協議会の議を経る必要のある事項について

1) 平成18年度業務実績報告書について

資料に基づき説明があり、次の質疑が行われた。

就職希望者の内定率がほぼ100%であるが、県内就職者の希望と実際がどうか。

また、「外部資金」には、受託研究と共同研究、奨学寄付金も含めているか。

県内・県外の希望というのは必ずしも正確に反映されているかどうかは、不明である。

また、外部資金には受託研究、共同研究、奨学寄付金が含まれている。

出願者数の中での男女の比率と、実際に入学された男女の比率はどうか。

出願時の男女の比率は不明。合格者の男女の比率は、生物資源では約半々から女性のほうが若干多い。システムの中では女性の割合が約25%。

2) 平成18年度決算について

建物の摩耗について、秋田キャンパスと本荘キャンパスでの違いはあるか。

今のところ特に問題はない。むしろ、大潟キャンパスとフィールド教育研究センターの老朽化が問題である。

3) 規程の改正について

資料に基づき説明を行い、了承された。

(2) 平成18年度に経営協議会で提言のあった事項に関する取組状況について

1) 特待生制度について資料により説明を行い、次の質疑が行われた。

特待生の表彰は、公表しているのか。

学内では公表しているが、マスコミには公表していない。セレモニーは各学部で行っている。

2) 生涯学生制度について資料により説明を行った。

(3) 平成18年度第4回協議会以降の学内外情勢について

1) 公立大学協会北海道・東北地区協議会選出理事への就任について

資料に基づき説明が行われた。

2) 産学連携について

(株)TDKとの連携について

資料に基づき説明が行われた。

産学連携による純米吟醸酒について

資料に基づき説明が行われ、次のような質疑があった。

産学連携事業のお酒について非常に好評であった。

農学系ではなく、工学系との連携である。

菜の花フォーラムについて

資料に基づき説明が行われた。

3) 秋田大学との連携事業について

資料に基づき説明が行われ、次のような質疑応答が行われた。

市民との対話フォーラムは行う予定か。

今のところ計画はしておりません。

4) 10周年記念事業について

資料に基づき説明が行われ、次のような質疑応答が行われた。

10周年を積極的に周知するべきである。

できる限り良い形で実行したいと考えている。今後お知恵を拝借することもあると思うので、ご助力願えれば大変幸いと思う。

5) その他

・地域町内会との交流について

資料に基づき説明が行われた。

・学会への支援について

資料に基づき説明が行われた。

- ・名誉教授の称号授与について

資料に基づき説明が行われ、次のような質疑応答が行われた。

名誉教授の特典は何か。

図書館の利用。

科研費の申請もできるのでは。

そのとおりである。

- ・学長と学生の懇談会について

資料に基づき説明が行われた。

(4) 今後の大学や法人のあり方について

1) 社会人入学も含めた大学院のあり方について

資料に基づき説明が行われ、次のような質疑応答が行われた。

県立大として大学院を充実させていく必要があるのか、あるとすればどういう理由によるのかという点についてご意見を伺いたい。秋田大学では、進学率は高いのではないかと。

医学部では苦戦している。工学系ではなんとか定員を満たしているが、似たような状況である。

秋田という地域性から考えてマスターの学位とかドクターの学位を必要としているのか。世の中の動きとしては、修士については各企業の採用ではほぼ当たり前になっており、その割合が増えている。秋田だから逆に秋田として何が魅力的なテーマで、魅力的な展開ができるかということを考えなくてはいけない。今までは学校名というのは就職の際、有利に働いたが、最近は学校名を出さなくなっているため、チャンスが増えると考えべき。秋田には鉱山もありバラエティに富む場所であるため、秋田の特色を出した大学院、例えばTDKとの関係を徹底的に強めることも必要ではないか。また、金融機関との連携を強めることも必要ではないか。大学院は増える方向にあるため、秋田の魅力を作るということを検討すべきである。

地元の秋田銀行と北都銀行と包括協定を行った。今後、中小企業金融公庫との連携も予定している。銀行は、研究開発費は銀行では出さないが、ベンチャービジネスができないかということを検討し、研究開発に投資、サポートすることも始めている。このような動きを大学院と結びつけることが必要と考える。

(5) 次回の開催について

次回の平成19年度第2回経営協議会について、9月の開催予定となった。

以上